

した。特に大礼館は、天皇が使った御大典の調度品を一般に初公開したことから人気を呼んだようでした。

昭和十三年には、市制五十周年記念の日本産業観光甲府大博覽会を開催する予定でしたが日華事変のため中止となってしましました。当時の三月二日付の新聞には市議会における中止をめぐっての質疑の記事もみえ、博覽会開催のための努力は、開催予定日の三月二十五日を過ぎた三月三十一日まで続けられていたようです。

昭和五十九年十月には、未来をひらく工業展が青沼スポーツ広場で開かれましたが五日間というミニ博覽会でした。

以上は、過去に開かれた博覽会ですが、今回開催される博覽会は、単に産業振興だけでなく、文化面、社会面へのアプローチにウエイトが置かれています。その一つが、新しい文化の創造と科学の可能性への挑戦と再発見。さらには、地域振興としての甲府市のアイデンティティを高めることです。

「夢・心・きらめく未来」をテーマに、あ

すの甲府市、二十一世紀へ羽ばたく甲府市の未来像を展望しての甲府博覽会。こんな

期待と衆目の中で九月十五日から十一月二十日までこの博覽会が開催されます。そして、そこから甲府が新たに発展する、エネ

こ う ふ の 弓 道 場

久保寺 弘 美

して、また大会の開催場としても良く用いられ、県内外から大勢の人々が集まってきたところです。

現在も剣道や柔道などで盛んに使われている武徳殿の陰にかくれてしまいがちですが、お城の弓道場と呼ばれて数多い思い出を持つていてる方がたくさんいます。交通が便利で、駅に近く、道場の脇には桜の大木があり、良い環境の中で弓を引けたそうです。太い梁を使った土壁造りの威厳ある道場で、射位以外には畳が敷かれ、落ち着いた雰囲気をかもしだしていました。遠的場

も隣接してあったそうです。

この弓道場は取り壊されてしましましたが、昭和四十六年七月に緑が丘総合体育館

ルギーが生れることを期待しています。

(市史編さん調査協力員)

一 お城の弓道場

県営の道場では舞鶴公園内にあった弓道場を忘れてはなりません。戦前からあった弓道場で甲府市内の弓道愛好者の練習場と

の一部に新しく県営弓道場が設立され、現在段級審査や大会などに多く利用されています。

二 古屋弓道場（弦友館）

甲府市民を中心に利用され、また多くの選手を輩出した一般道場（町道場）に弦友館（古屋弓道場）があります。古屋家の出身は東山梨郡大和村の古くから名主をつづけた旧家で、その邸内に道場が置かれていたといいますから、弓とは長いかかりを持っています。大和村から甲府へ移ってきたのは明治初年で『山梨鑑』（明治二十七年刊）にも「甲府市太田町（公園内）古屋旭。大弓場」と見えます。

明治二十年代半ばには成紅軒という道場名で、甲府市桜町（現丸の内一丁目）に開設されました。昭和十年頃には道場名を弦友館と改め（現在の岡島ロイヤル会館駐車場の辺り）、紅梅町（現丸の内一丁目）に移りましたが、時代劇によく出て来る遊びとしての矢場（半弓場）ではなく、桜町の頃はよく商店主の人たちや甲府で弓を引いている人が朝会、昼会、夕会と時間を分けて、心身鍛練や懇親の場として利用していくそうです。

たそうです。
弦友館はその後昭和五十年、西田町に移つておりますが、現在も矢師として活躍なさっている古屋勝雄氏を中心に、稽古に通う人々の交流の場としていまも人の出入りが絶えません。

三 青沼の弓道場

（市史編さん事務局）

私事で大変恐縮なのですが、高校・大学そして社会人と弓道を続けてきました。そのなかでいつも感じるのは道場における練習の大切さです。この文を通して少しでも弓道について興味を持っていただければと思います。そしてこれから弓道発展に期待したいと思います。

昭和六十三年をもつて取り壊された弓道場に山梨弓道連盟甲府支部の青沼弓道場があります。この青沼の弓道場（青沼三丁目）は、甲府商業高校が当地にあった時、部活動に使用されていた道場で、学校が現在地（上今井町三〇〇）へ移転して青沼スポーツ公園になると共に甲府支部の道場として利用されるようになりました。

狭い道場で三人立ちがやっとという感じでしたが、甲府の人たちにとっては貴重な練習の場でした。甲府支部員約七十名のほかにも甲府市内の中学・高校生などが利用していました。また支部の活動として月一回の例会（射会）もここで行われ、日々にぎわっていました。しかし甲府市総合市民会館の建設のため、今は新しい道場の完成を待っているところです。